

包括的な経済上の連携に関する日本国とグレートブリテン及び  
北アイルランド連合王国との間の協定に基づく公表

包括的な経済上の連携に関する日本国とグレートブリテン及び北アイルランド連合王国との間の協定（令和2年条約第16号）第10・1条により同協定第10章に組み込まれた政府調達に関する協定（平成7年条約第23号）第19条第1項及び2012年3月30日ジュネーブで作成された政府調達に関する協定を改正する議定書第6条第1項の規定に基づき、関係手続の改正を次のとおり公表する。

令和3年1月14日

国立研究開発法人産業技術総合研究所

◎調達機関番号 808 ◎所在地番号 08

1. 改正された規則の名称等 政府調達事務取扱要領  
(趣旨)

**第1条** この要領は、1994年4月15日マラケシュで作成された政府調達に関する協定、2012年3月30日ジュネーブで作成された政府調達に関する協定を改正する議定書によって改正された協定（以下「改正協定」という。）その他の国際約束を実施するため、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「研究所」という。）が締結する契約のうち、国際約束の適用を受けるものに関する事務の取扱いに関し、契約事務取扱要領（13要領第12号）の特例を設けるとともに必要な事項を定めるものとする。

(定義)

**第2条** この要領において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 物品等 動産（現金及び有価証券を除く。）及び著作権法（昭和45年法律第48号）第2条第1項第10号の2に規定するプログラムをいう。
- 二 特定役務 改正協定の附属書I日本国の付表5に掲げるサービス及び同附属書I日本国の付表6に掲げる建設サービス（以下「建設工事」という。）に係る役務をいう。
- 三 調達契約 物品等又は特定役務の調達のため締結される契約（当該物品等若しくは当該特定役務以外の物品等又は役務の調達が付随するものを含み、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）第2条第2項に規定する特定事業（建設工事を除く。）にあつては、民間資金等の活用による公共施設等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律の一部を改正する法律（平成23年法律第57号）による改正前の同項に規定する特定事業を実施するため締結される契約に限る。）をいう。
- 四 一連の調達契約 特定の需要に係る一の物品等若しくは特定役務又は同一の種類の上の物品等若しくは特定役務の調達のため締結される二以上の調達契約をいう。

(適用範囲)

**第3条** この要領は、研究所の締結する調達契約であつて、当該調達契約に係る予定価格（物

品等の借入に係る調達契約又は一定期間継続して提供を受ける特定役務の調達契約にあっては、借入期間又は提供を受ける期間の定めが12月以下の場合には当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の予定価格の総額、その期間の定めが12月を超える場合は当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の予定価格の総額に見積残存価額を加えた額とし、その他の場合は、1月当たりの予定賃借料又は1月当たりの特定役務の予定価格に48を乗じて得た額とする。)が、次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定める額以上であるもの(以下「特定調達契約」という。)に関する事務について適用する。ただし、有償で譲渡(加工又は修理を加えた上でする譲渡を含む。)をする目的で取得する物品等若しくは当該物品等の譲渡(加工又は修理を加えた上でする譲渡を含む。)をするために直接に必要な特定役務(当該物品等の加工又は修理をするために直接に必要な特定役務を含む。)又は有償で譲渡をする製品の原材料として使用する目的で取得する物品等若しくは当該製品の生産をするために直接に必要な特定役務の調達契約に関する事務については、この限りでない。

一 物品等の調達契約 国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令(昭和55年政令第300号。以下「国の特例政令」という。)第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

二 特定役務のうち建設工事の調達契約 国の特例政令第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

三 特定役務のうち建設のためのサービス、エンジニアリング・サービスその他の技術的サービスの調達契約 国の特例政令第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

四 特定役務のうち前2号以外の調達契約 国の特例政令第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

2 前項の予定価格は、調達契約に関し契約事務取扱要領第14条第1項ただし書きの規定により単価についてその予定価格が定められる場合にあつては、当該予定価格に当該調達契約により調達すべき数量を乗じた額とし、一連の調達契約が締結される場合にあつては、当該一連の調達契約により調達をすべき物品等又は特定役務の予定価格の合計額とする。

(参加のための条件)

**第3条の2** 契約担当職は、調達の要件を満たすために不可欠な場合には、競争参加者に対し、当該調達に関連する取引の実績を提示することを求めることができる。ただし、当該実績を日本国において有していることを条件として課してはならない。

(競争参加者の資格に関する審査等)

**第4条** 契約担当職は、契約事務取扱要領第9条第2項の規定による資格の審査の申請があり、特定調達契約の締結が見込まれるときは、随時、当該審査を行わなければならない。

2 契約担当職は、前項の資格の審査を行った場合は、当該審査を申請した者に対し、審査結果を遅滞なく通知しなければならない。

3 契約担当職は、特定調達契約の締結が見込まれるときは、契約事務取扱要領第9条第4項の規定による公示については、当該特定調達契約の締結が見込まれる事業年度ごとに、官報により公示しなければならない。

4 契約担当職は、指名競争による特定調達契約の締結が見込まれるときは、随時に指名競争

に参加しようとする者の申請を待って、その者が当該資格を有するかどうかを審査しなければならない。

5 契約担当職は、指名競争による特定調達契約の締結が見込まれるときは、当該特定調達契約の締結が見込まれる事業年度ごとに、当該資格の基本となるべき事項、資格審査の項目及び申請の期日等について官報により公示しなければならない。

6 契約担当職は、第3項又は前項の公示において、次に掲げる事項を明らかにしなければならない。

一 調達をする物品等又は特定役務の種類

二 工事、製造、物件の買入れその他についての契約の種類ごとに、その金額等に応じて、工事、製造又は販売等の実績、従業員の数、資本の額その他の経営の規模及び経営の状況に関する事項について一般競争又は指名競争に参加する者に必要な資格の有効期間及び当該期間の更新手続

(一般競争の公告)

**第5条** 契約担当職が特定調達契約につき一般競争に付そうとするときは、その入札の期日の前日から起算して少なくとも40日前（一連の調達契約に関し、その最初の契約に係る入札の公告において、その後の契約に係る入札の公告において24日以上40日未満の入札期間を定めることを示す場合には、当該その後の契約については、その定めた期日まで）に官報により公告しなければならない。ただし、急を要する場合には、その期間を10日まで短縮することができる。

2 契約担当職は、入札者若しくは落札者がいない場合又は落札者が契約を結ばない場合において、さらに入札に付そうとするときは、前項による入札公告の期間を短縮することはできないものとする。

(一般競争について公告をする事項)

**第6条** 前条による公告は、契約事務取扱要領第10条第1項各号に掲げる事項及び同条第2項の規定により明らかにしなければならない事項のほか、次に掲げる事項についてするものとする。

一 一連の調達契約にあつては、当該一連の調達契約のうち一の契約による調達後において調達が予定される物品等又は特定役務の名称、数量及びその入札の公告の予定時期並びに当該一連の調達契約のうち最初の契約に係る入札の公告の日付

二 契約事務取扱要領第9条第2項の規定による申請の時期及び場所

三 第10条に規定する文書の交付に関する事項

四 落札者の決定の方法

2 契約担当職は、前項の公告において、当該公告に示した競争に参加する者に必要な資格のない者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする旨を明らかにしなければならない。

3 契約担当職は、前項の規定による公告において、契約担当職の氏名及び役職名並びに契約の手續において使用する言語を明らかにするほか、次に掲げる事項を、英語、フランス語又はスペイン語のいずれかの言語により、記載するものとする。

- 一 調達をする物品等又は特定役務の名称及び数量
- 二 入札期日又は契約事務取扱要領第9条第2項の規定による申請の時期
- 三 契約担当職の氏名及び役職名  
(指名競争の公示等)

**第7条** 契約担当職は、特定調達契約につき指名競争に付そうとするときは、第5条第1項の規定の例により、公示しなければならない。

- 2 前項の規定による公示は、前条の規定により一般競争について公告をするものとされている事項のほか、指名されるために必要な要件についてするものとする。
- 3 前項の規定により指名される競争参加者に対しては、契約事務取扱要領第10条第1項第1号及び第3号から第5号までに掲げる事項を第1項の規定による公示の日において当該競争参加者に通知しなければならない。
- 4 前項の場合においては、前項により通知しなければならない事項のほか、次に掲げる事項を通知しなければならない。
  - 一 一連の調達契約にあつては、前条第1項第1号に掲げる事項
  - 二 契約の手續において使用する言語  
(公告又は公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者の取扱い)

**第8条** 契約担当職は、特定調達契約につき一般競争に付そうとする場合において公告をし、又は指名競争に付そうとする場合において前条第1項の規定による公示をした後、当該公告又は公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者から契約事務取扱要領第9条第2項による申請があつたときは、速やかに、その者が同条第1項に規定する資格を有するかどうかについて審査を開始しなければならない。

- 2 契約担当職は、特定調達契約に係る指名競争の場合においては、前項の規定による審査の結果、資格を有すると認められる者のうちから、指名されるために必要な要件を満たしていると認められる者を指名するとともに、その指名する者に対し、前条第3項に規定する事項及び同条第4項各号に掲げる事項を通知しなければならない。
- 3 契約担当職は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に係る資格審査の申請を行った者から入札書が第1項の規定による審査の終了前に提出された場合においては、その者が開札の時において、一般競争の場合にあつては契約事務取扱要領第10条第1項第2号に規定する競争に参加する者に必要な資格を有すると認められることを、指名競争の場合にあつては前項の規定により指名されていることを条件として、当該入札書を受理するものとする。
- 4 契約担当職は、第1項に規定する一般競争又は指名競争に係る資格審査の申請があつた場合において、開札の日時まで同項の規定による審査を終了することができないおそれがあると認められるときは、あらかじめ、その旨を当該申請を行った者に通知しなければならない。  
(郵便等による入札)

**第9条** 契約担当職は、特定調達契約につき郵便又は民間事業者による信書の送達に関する法律（平成14年法律第99号）第2条第6項に規定する一般信書便事業者若しくは同条第9項に規定する特定信書便事業者による同条第2項に規定する信書便による入札を禁止してはなら

ない。

(技術仕様)

**第9条の2** 契約担当職は、環境ラベルの使用基準を満たすような環境を害しない技術仕様又は欧州連合、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国若しくは日本国において効力を有する関係法令に定める環境を害しない技術仕様を適用する場合には、これらの技術仕様に関し、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- 一 契約の対象である物品又はサービスの特性を定めるために適当なものであること。
- 二 客観的に検証可能かつ無差別な基準に基づくものであること。

2 契約担当職は、調達の実施に関する環境上の条件を定めることができる。ただし、当該環境上の条件が、国際約束に定める規則と両立しており、かつ、第5条の公告又は第7条の公示において示されている場合に限る。

(入札説明書の交付)

**第10条** 契約担当職は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付そうとするときは、これらの競争に参加しようとする者に対し、その者の申請により、次に掲げる事項を記載した入札説明書を交付するものとする。

- 一 第6条又は第7条第2項の規定により公告又は公示をするものとされている事項（ただし、第6条第1項第3号に掲げる事項を除く。）
- 二 調達をする物品等又は特定役務の仕様その他の明細
- 三 開札に立ち会う者に関する事項
- 四 契約担当職の氏名並びにその所属する部又は室の名称及び所在地
- 五 契約の手続において使用する言語
- 六 その他必要な事項

(落札)

**第10条の2** 契約担当職は、予定価格の制限の範囲内であるものの、入札書に記載された申込みの価格が、他の入札書と比べ著しく低い価格である場合、当該価格が補助金及び相殺措置に関する協定で定める補助金の交付を考慮に入れたものであるかどうかについて、当該入札書を提出した者に確認を求めることができる。

(複数落札入札制度による物品等又は特定役務の調達)

**第11条** 契約担当職は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付する場合において、その需要数量が多いときは、その需要数量の範囲内でこれらの競争に参加する者の落札を希望する数量及びその単価を入札させ、予定価格を超えない単価の入札者のうち、低価の入札者から順次需要数量に達するまでの入札者をもって落札者とするることができる。

(随意契約によることができる場合)

**第12条** 特定調達契約については、次に掲げる場合に該当するときに限り、随意契約によることができる。

- 一 契約担当職は、競争に付しても入札者がいないとき、又は再度の入札をしても落札者がいないときは、随意契約によることができる。この場合においては、契約保証金及び履行期限を除くほか、最初競争に付するときに定めた予定価格その他の条件を変更することができ

ない。

二 契約担当職は、落札者が契約を結ばないときは、その落札金額の制限内で随意契約によることができる。この場合においては、履行期限を除くほか、最初競争に付するときに定めた条件を変更することができない。

三 他の物品等をもって代替させることができない芸術品又は特許権等の排他的権利に係る物品等若しくは特定役務の調達をする場合において、当該調達の相手方が特定されているとき。

四 既に調達をした物品等（以下この号において「既調達物品等」という。）の交換部品その他既調達部品等に接続して使用する物品等の調達をする場合であって、既調達物品等の調達の相手方以外の者から調達をしたならば既調達物品等の使用に著しい支障が生ずるおそれがあるとき。

五 研究所の委託に基づく試験研究の結果製造された試作品等の調達をする場合

六 既に契約を締結した建設工事（以下この号において「既契約工事」という。）についてその施工上予見し難い事由が生じたことにより既契約工事を完成するために施工しなければならなくなった追加の建設工事（以下この号において「追加工事」という。）で当該追加工事の契約に係る予定価格に相当する金額（この号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約を締結した既契約工事に係る追加工事がある場合には、当該追加工事の契約金額（当該追加工事が二以上ある場合には、それぞれの契約金額を合算した金額）を加えた額とする。）が既契約工事の契約金額の100分の50以下であるものの調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達をしたならば既契約工事の完成を確保する上で著しい支障が生ずるおそれがあるとき。

七 計画的に実施される施設の整備のために契約された建設工事（以下この号において「既契約工事」という。）に接続して当該施設の整備のために施工される同種の建設工事（以下この号において「同種工事」という。）の調達をする場合、又はこの号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約が締結された同種工事に接続して新たな同種工事の調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達をすることが既契約工事の調達の相手方から調達をする場合に比して著しく不利と認められるとき。ただし、既契約工事の調達契約が第4条から前条までの規定により締結されたものであり、かつ、既契約工事の入札に係る第6条の公告又は第7条の公示においてこの号の規定により同種工事の調達をする場合があることが明らかにされている場合に限る。

八 緊急の必要により競争に付することができない場合

九 事業協同組合、事業協同小組合若しくは協同組合連合会又は商工組合若しくは商工組合連合会の保護育成のためにこれらの者から直接に物品等を買入れるとき。

（落札者の決定に関する通知等）

**第13条** 契約担当職は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者を決定したときは、その日の翌日から起算して7日以内に、落札者を決定したこと、落札者の氏名及び住所並びに落札金額を、落札者とされなかった入札者に書面により通知するものとする。この場合において、落札者とされなかった入札者から請求があるときは、当該

請求を行った入札者が落札者とされなかった理由（当該請求を行った入札者の入札が無効とされた場合にあつては、無効とされた理由）を当該請求を行った入札者に通知するものとする。

（落札者等の公示）

**第14条** 契約担当職は、特定調達契約につき、一般競争又は指名競争により落札者を決定したとき、又は随意契約の相手方を決定したときは、その日の翌日から起算して72日以内に、次に掲げる事項を官報により公示しなければならない。

- 一 落札又は随意契約に係る物品等又は特定役務の名称及び数量
- 二 契約担当職の氏名並びにその所属する部又は室の名称及び所在地
- 三 落札者又は随意契約の相手方を決定した日
- 四 落札者又は随意契約の相手方の氏名及び住所
- 五 落札金額又は随意契約に係る契約金額
- 六 契約の相手方を決定した手続
- 七 一般競争又は指名競争によることとした場合には、第6条の規定による公告又は第7条の規定による公示を行った日
- 八 随意契約による場合にはその理由
- 九 その他必要な事項

（一般競争又は指名競争に関する記録）

**第15条** 契約担当職は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者を決定したときは、次に掲げる事項について、記録を作成し、保管するものとする。

- 一 入札者及び開札に立ち会った者の氏名
- 二 入札者の申込みに係る価格
- 三 落札者の氏名、落札金額及び落札者の決定の理由
- 四 無効とされた入札がある場合には、当該入札の内容及び無効とされた理由
- 五 第8条第4項の規定により通知した場合には、当該通知に関する事項
- 六 その他必要な事項

（随意契約に関する記録）

**第16条** 契約担当職は、特定調達契約につき随意契約によつた場合には、当該随意契約の内容及び随意契約によることとした理由について、記録を作成し、保管するものとする。

（苦情の処理）

**第17条** 契約担当職は、特定調達契約につき落札者とされなかった入札者からの苦情その他特定調達契約に係る苦情の処理に当たる職員を指定するものとする。

（特定調達契約に関する統計）

**第18条** 契約担当職は、経済産業省の依頼により特定調達契約に関する統計を作成し、経済産業省に送付するものとする。

#### 附 則（13要領第14号）

- 1 この要領は、平成13年4月1日から施行する。

- 2 この要領は、この要領の実施の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘因に係る契約で同日以後に締結されるものに関する事務については、適用しない。

**附 則（14要領第36号・一部改正）**

この要領は、平成14年11月30日から施行する。

**附 則（19要領第57号・一部改正）**

この要領は、平成20年1月1日から施行する。

**附 則（22要領第71号・一部改正）**

この要領は、平成22年10月1日から施行する。

**附 則（25要領第93号・一部改正）**

- 1 この要領は、改正協定が日本国について効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた告示その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

**附 則（26規程第71号・一部改正）**

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

**附 則（30要領第28号・一部改正）**

- 1 この要領は、経済上の連携に関する日本国と欧州連合との間の協定が効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

**附 則（令02要領第67号・一部改正）**

- 1 この要領は、包括的な経済上の連携に関する日本国とグレートブリテン及び北アイルランド連合王国との間の協定が効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

2. この公表に関する問合わせ先

国立研究開発法人産業技術総合研究所 総務本部 経理部 調達管理室  
電話 029-861-2013